

Improvement Of Teaching Methods(6)

学習指導案

校長

教員は1回1回の授業について事前に授業計画を立てずに、授業を上手く行うことはできません。授業の計画を立てるには、指導案を作成しなくてはなりません。指導案は授業設計図であり、授業を行う前に自分の頭の中で授業を思い浮かべ、追加や修正をして実際の授業に結びつけるのです。

教員は生徒に学習させたいと思う内容を明らかにする必要がある、それは本時のねらいや目標で示されます。目標を具体的に記さないと、教えることがはっきりしなかったり、山場がなかったりする授業になってしまいます。展開のある、山場のある、メリハリのある授業を行うには、授業のねらいや目標をしっかり定める必要があります。

授業のねらいや目標を定めるには、学習指導要領の目標や教科書の指導書に書かれている目標と、自分の考えているねらいや目標との差異等を検討し、吟味して授業のねらい、目標を立てることが必要です。

学習指導案のポイント

1. 授業実施の日時、対象クラス(生徒数)、授業者氏名(指導者がいる場合は指導者の職名と氏名)
2. 科目名(単位数)、使用教科書(教科書会社名)
3. 単元名、教材名、教材観、生徒観
4. 単元の指導目標、単元設定の理由、単元の指導計画
5. 本時の目標、ねらい
6. 授業過程
7. 評価の観点(評価方法)

注意点

1. 目標の設定は適切か。授業の目標は授業の生命線です。どんな高い目標も、生徒の実態を無視しては、授業は成立しません。現在の生徒の実態と、授業後の生徒像を考えて目標を設定しましょう。
2. 生徒の思考を考慮した指導過程になっているのか。平板な授業にならないように指導過程を考えましょう。テクニカルタームの説明と指示だけでは、衛星放送の授業と同じであり、実際の授業では教員と生徒は対面して授業を行っているのです。
3. 研究授業等で指導者や助言者がいる場合、少なくとも2～3日前までに学習指導案を完成させ、事前に見せましょう。